

『あなたの症例を名医が解く』
サンプル症例

【症例】

43歳 男性

【主訴】

体調不良

【現病歴】

X年6月、頻尿を期に泌尿器科を受診した。器質的な疾患は無く、テストステロン値の低下を認めた。頭痛、肩こり、身体動揺感、不眠など訴えており男性更年期と診断された。ホルモン補充療法施行していたが症状改善無く、漢方治療目的に受診となった。

【既往歴】

高血圧 5年間

【内服薬】

オルメテック 20mg 1錠 朝

【現症】 (※ROS=Review Of Systems (+)は陽性所見 (-)は陰性所見)

ROS (+) 夜間尿 (2回)、身体動揺感、不眠、疲れやすい。疲れると頭痛がある。
布団に入ると手足が火照る。ホットフラッシュ時折見られる。

ROS (-) 食欲低下 肩こり 腰痛 冷え性

脈：浮沈間 弦 尺脈が弱く触れにくい。

舌：胖大、淡白色、微白苔が全体的に付着、舌下静脈怒張あり。

【弁証】

腎陰虚 気虚

加齢により腎陰虚が進行した。それに伴って気虚が進行し、脳を栄養できなくなったため身体動揺感がみられるようになってきた。陰虚により虚熱が生じ、弱く内風を生んだため身体動揺感がみられている。

【治法】

補気補腎陰 鎮肝熄風

【処方(場合によっては配穴)】

ツムラ六味丸エキス + ツムラ半夏白朮天麻湯エキス 各3包 3×

【治療経過】

身体動揺感、倦怠感、泌尿器症状があり半夏白朮天麻湯+六味丸を中心に治療を継続したところ、夜間尿、身体動揺感、倦怠感など改善した。半夏白朮天麻湯を抑肝散に変更した。仕事で肩こりや、外回りの後の足のだるさなどを訴えていたこと、舌下静脈の怒張も認められたことから桂枝茯苓丸を追加し、肩こりなど改善。以前めまい、夜間のほてりなどあるため、よる寝る前に黄連解毒湯を追加した。

【考察】

男性更年期も腎虚による症状と捉えられる。腎虚による泌尿生殖器症状はもちろん、腎虚から五臓への影響を考えると、特に肝陰虚や、心腎不交に伴う不眠の症状が見られることが多い。この症例でも脈が弦であり、肝陰虚による肝陽上亢でめまいがしていたと考えられた。また直接心陰に対する治療は無かったが、不眠症状は改善した。腎虚に伴う症状を考察することで適切な治療を行うことが出来る。